

第百二十回 楽々俳句会(ちば)

令和七年六月五日(木) 晴

集合 JR千葉みなと駅 九時集合
会場 ポートタワー休憩室 十時

1 海までの浮き棧橋や夏つばめ

2 船よりも白き航跡夏来る

久 育子
武 粋歩
久 豊隆

武 早朝に呱呱の声聞く芒種かな

武 バス停の影に佇む夏の蝶

武 宣子
久 成子

久 2 1 夏蝶や空広げたるポートタワー

久 2 片陰り海までつなぐ楠並木

武 恵美子
久 恵美子

武 1 横波の長き水際や風光る

久 1 若狭湾車窓に広がる麦の秋

久 静代
武 豊隆

久 1 夏ばらに浮かぶブロンズ空を指す

武 豊隆
久 豊隆

久 五月晴水脈巻き上げて船迫る

久 泰山木秘めたる森の仙女かな

久 朱鳥居出口で貰ふ新茶かな

久 育子
久 育子

久 1 改札を抜ける人並み衣替え

俳句の「ころもがえ」は更衣

久 1 港湾や青葉ぐるりと潮あおば

久 成子
久 恵美子

1 1 青葉潮湾ぎりぎりを京葉線

1 1 移り気を咎むる莫れ薔薇百科

4 吟行に雨意あるも良し花は葉に

信雄
信雄
信雄

3 夏めくや湾に船舶点々と 久登

2 緑陰のベンチ読書の指定席 宣子

2 新緑や旅客機の音落し行く 久登

2 わが朱夏の一句は夢の中に消ゆ 園子

1 梅雨晴れ間荷降ろし急ぐ貨物船 粋歩

1 紫陽花の色なお残す小糠雨 宣子

1 夏の雲巨船まるまる見せにけり 武彦

ポートタワー夏空と海一対なり

初めての青空浴びる夾竹桃

風薫るポートタワーや千葉港

夏場所の大の里関背みちみちし

夏場所後の綱みちみちし大の里

千葉みなと夏のニュースを彷彿す

お疲れとビール乾杯ウオーキング

赤薔薇の中の黄薔薇エレガント

夏海歌うよう話す女学生

女学生歌うよう話す夏の海

参加者 成子・園子・育子・恵美子・宣子・

豊隆・粋歩・武彦・久登

投句・信雄・静代 欠席 弘子・今日子・洋子・利太郎・ミチ子

次回予定

七月十日 (木)

十時活動センター

兼題「入道雲」

八月十四日 (木)

十時活動センター

兼題「金魚」

九月十一日 (木)

十時活動センター

兼題「案山子」